

# おまつり

－「児童の希望を生かした店づくり」の実践から－

藤村佳令

## 1 単元について

本学級の総合学習では、多様な集団の中で、様々な人間関係を持ち、その中で自己表現、自己承認、仲間づくりができるようにすることをねらいの一つとしている。このねらいのもとで、本単元では、学級内の児童同士、他の学級の児童、教職員、保護者などに関わりながら、“自分たちのおまつり”を展開していくものである。

児童にとって『おまつり』は、身近な季節行事の一つである。児童は、それぞれ住んでいる地域のおまつりに行ったり、子ども会などでおみこしを担ぐ活動に参加したりしている。その経験からおまつりには、どのような物があるかということをイメージすることができている。また、校内での児童会活動や、昨年までの経験から「こんなお店をしたい。」「こんなふうに飾りたい。」など“自分たちのおまつり”に対するイメージをもっている児童もいる。

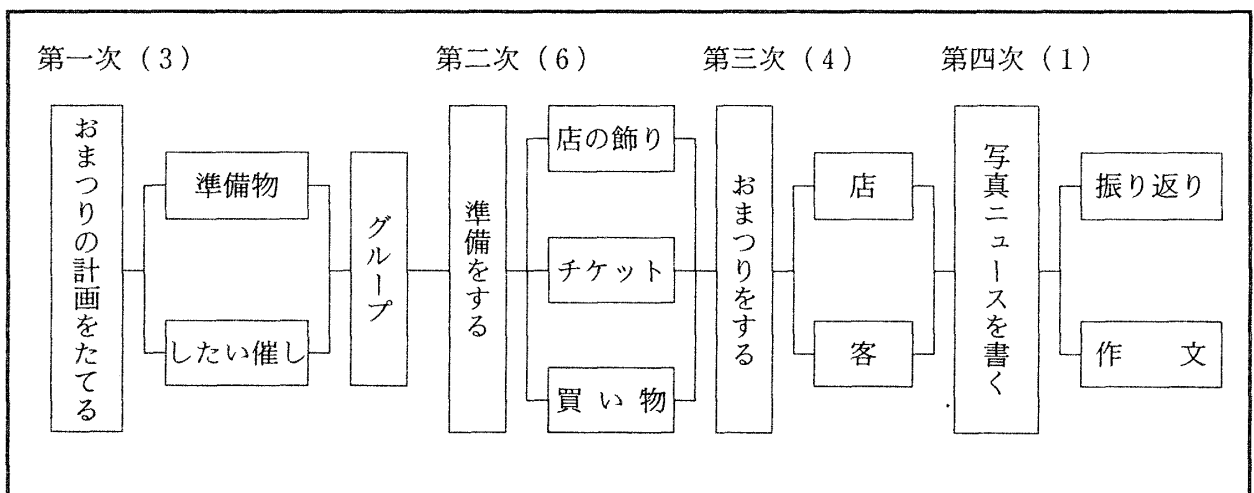
本単元では、児童の経験や、したい催しの希望を生かしてグループに分かれ、それぞれのグループでおまつりの活動をしていくように設定した。単元を展開するにあたり、次の3点を指導の目標として取り組んだ。

- ・自分のしたい催しを選ぶことができるようにする。
- ・自分たちの催しをどのようにするか、工夫して準備することができるようにする。
- ・友だちと一緒におまつりの活動ができるようにする。

## 2 指導の実際

### (1) 指導内容と計画

次のような指導計画を立て、14時間の学習に取り組んだ。



#### ① 第一次（イメージづくり）

過去の取り組みのビデオを見て、これまでの経験を思い起こし、おまつりに対するイメージがもてるようにした。自分たちでおまつりをするためには、何が必要かを考え、そのために準備す

べき物について話し合った。また、お好み焼き、ホットケーキ、ポップコーンの実物を児童に提示し、実際に食べてみることにし、やってみたい店を児童の希望により決定するようにした。

② 第二次（準備）

グループ（3つの店別）に分かれて取り組んでいった。第一次で考えた準備物をもとに、店の飾りづくり（3時間）、チケットづくり（1時間）、買い物（2時間）に取り組んだ。

③ 第三次（おまつり当日）

おまつりの当日は、食べ物をつくって売る（チケットと交換する）活動と、他の店に行って買う（チケットと交換してもらう）活動とに分かれて行った。

売る活動では、つくる役、チケットと交換する役、「いらっしゃい」と声をかける役などの役割分担をし、それぞれの児童の得意とする活動が生かせるようにした。保護者や低学年児童、教職員、教育実習生にもチケットを配布しておいたため、かなり賑わい、忙しいながらも意欲的で盛り上がりのある活動となった。

買う活動では、他の店の物は全部食べられるようにしておき、おまつりの雰囲気を楽しむとともに、来年度の活動へとつながっていけるようにした。

④ 第四時（振り返り）

当日の写真やビデオにより、おまつりの取り組みについて振り返った。自分が実際に行った活動だけでなく、友だちや全体の様子まで振り返ることができ、児童にとって充実した取り組みであったことがうかがえた。作文では、たくさんの方が書けたり、その時の心情を表現することができたりする児童が多くいた。

(2) 実践報告（第二次、店の飾りづくり）

① 児童の実態と課題

実 態	課 題	児 童
これまでの経験をもとに、自分がしたいことを言うことができる。	自分のしたい活動を選び、どのようにしたらよいか工夫するようになる。	⑤⑥⑫⑬
これまで経験した中から、自分のしたいことを選ぶことができる。	自分のしたい活動を選び、これまでの経験をもとに、活動に必要な物が分かるようになる。	④⑧⑨⑩⑭
2つ以上の選択肢の中から、自分のしたいことを選ぶことができる。	自分のしたい活動をえらび、活動に必要な物が分かるようになる。	①②③⑦⑪

② 本時の目標

友だちと一緒に、自分たちのしたい店の準備をすることができる。

③ 授業仮説

これまでのおまつりの経験やパーティーの経験を想起する場を設定するならば、自分たちのおまつりの店に必要な物を工夫して準備することができるであろう。

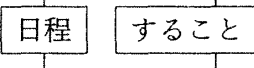
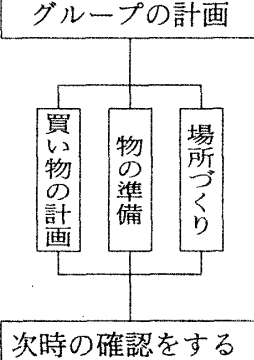
④ 目標行動

目 標 行 動	教 師 の 支 援	児 童
これまでの経験からおまつりに必要な物が分かって準備できる。	これまでの経験を整理できるような計画表を提示する。	⑤⑥⑫⑬
これまでの経験からおまつりに必要な物を選んで準備することができる。	これまで行った活動を写真等で提示する。	④⑧⑨⑩⑭
自分たちのしたいことに必要な物を準備することができる。	手がかりとなるような具体物や写真を提示する。	①②③⑦⑪

⑤ 準備物

計画表 (おまつりノート), おまつりの店に必要な物 (各グループで準備した物)

② 学習の展開

学 習 過 程	予想される活動	教 師 の 働 き かけ	
		全 体	個 別
1. 始まりのあいさつをする。 2. おまつりの確認をする。  3. グループごとに店の準備をする。  4. 終わりのあいさつをする。	<p>○おまつりの日程や催しについて積極的に発言するであろう (児④⑤⑥⑧⑩⑫⑭)</p> <p>○グループ内で分担した活動をする際、援助が必要であると思われる児童 (児①②③⑦⑪)</p> <p>○計画表をもとに、積極的に準備を進めるであろう (児④⑤⑥⑧⑨⑩⑫⑬⑭)</p> <p>○次時の活動について見通しをもつために手がかりが必要であると思われる児童 (児①②③⑦⑪)</p> <p>○次時の活動について見通しをもった発言をするであろう。(児⑤⑥⑫⑬⑭)</p>	<p>1.学習の始まりとして毎時間位置づける。</p> <p>2.おまつりの日時や場所、招待した人について問いかける。</p> <p>3.◎自分たちの催しについて確認できるように、計画表(おまつりノート)を示す。</p> <p>・児童が準備しやすいように、予め部屋のコーナーを区切っておくようにする。</p> <p>・各グループで次時の見通しをもつことができるよう、計画表で確認する。</p> <p>4. 始まりと同様に毎時間位置づける。</p>	<p>1.本日の当番児童にことばかけをする。</p> <p>2.児①②③には、誰を招待したのか写真を提示しながらことばかけをする。</p> <p>・児⑦⑨⑪には、自分たちの催しがわかるように、写真や絵を示す。</p> <p>3.◎児①②③⑦⑪には、準備するものが分かるよう、計画表の自分で選んだ物を具体物の中から選ぶことができるように提示する。</p> <p>・児⑫⑬⑭には、他の児童を援助しながら活動をするようことばかけをする。</p> <p>◎児①②③⑦⑪には買い物カードなど、次時の活動の手がかりとなるような物を示す。</p> <p>◎児④⑧⑨⑩には、計画表で次時の活動が確認できるようにことばかけをする。</p> <p>4.本日の当番児童にことばかけをする。</p>

3 考察

第二次(店の飾りづくり)における授業仮説は、妥当だったのだろうか。

**授業仮説** これまでのおまつりの経験やパーティーの経験を想起する場を設定するならば、自分たちのおまつりの店に必要な物を工夫して準備することができるであろう。

これまでの経験を想起する場として、昨年の様子を録画してあるビデオを視聴した。画面に映し出される昨年の様子を見ながら出てきた児童の感想は、「どんな店をしたか」「何を食べたか」というものが主だった。ビデオ視聴のあとそれぞれの店の飾りづくりに取りかかったが、食べ物を作るために必要な準備物以外は、児童の方からはすぐには出てこなかった。そこで、昨年の店はどんな飾りがしてあったか、どんな店構えだったかなど、具体的な内容の問いかけをしたところ、いくつか思い出すことができたようだ。今年は「こんなものを作ろう」「こんなふうにしよう」という希望と見通しのある言葉が聞かれるようになった。

ビデオ視聴による昨年の経験の想起は、指導者の言葉かけによる支援も含めて、これから取り組んでいく活動の見通しをもつことができ、妥当であったと思われる。加えて写真などの視覚的な資料が提示できれば、「今年はこのようにしたい」という児童の意欲はさらに深まったであろう。また、初めての経験となる1年生にとっても、「おまつり」がどのような雰囲気なのか、どのように進行されているのかをつかむことができ、ビデオ視聴の有効性は高かったと考える。(本校教諭)